

# ハスモンヨトウ情報第2号 (キャベツ)

令和3年9月3日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病虫害防除室

**フェロモントラップ誘殺数が一部地域で一時的に増加しましたが、現在は平年並です。今後のほ場での発生状況に注意しましょう**

## 1 発生状況

フェロモントラップにおける誘殺数は、8月上旬から8月中旬にかけて稲沢市、南知多町及び田原市中山町のキャベツほ場で平年と比較して多くなりましたが、現在は平年並です。田原市六連町のキャベツほ場では、8月第6半旬において昨年と比較して多くなりました(図1)。その他の地点ではおおむね平年並に推移しています。

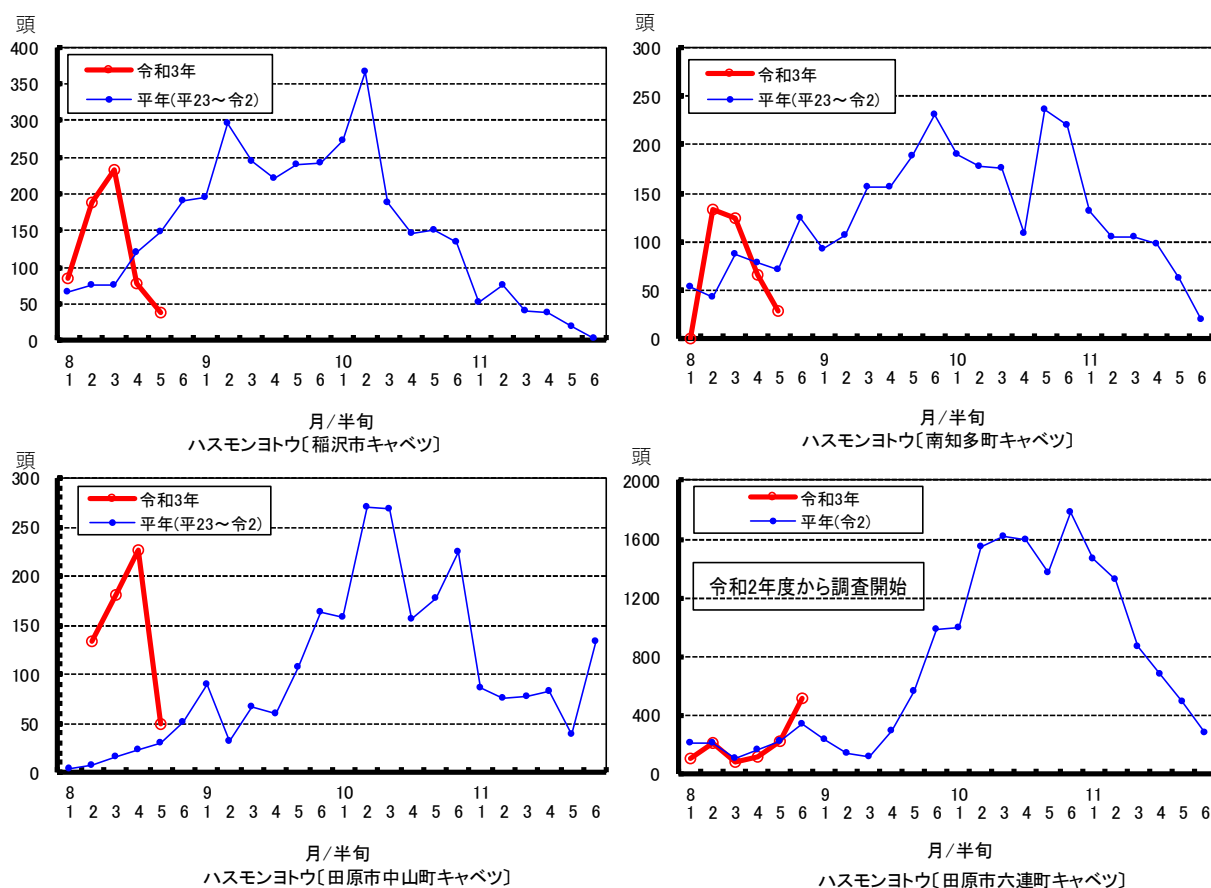


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

## 2 防除対策

- (1) ハスモンヨトウは残暑が厳しく降雨の少ない年に多発する傾向があります。名古屋地方气象台9月2日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並と見込まれています。しかし、気温が高くなった場合は急増する可能性がありますので、幼虫の発生が見られた場合、早めの防除を心がけましょう。
- (2) 中齢以降の幼虫(図2)は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期(図3)に防除しましょう。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐために、同じ IRAC コードの薬剤を連用しないようにしましょう (表1)。

(4) ダイズほ場で白変葉が目立つ場合は、8月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考に直ちに防除しましょう。



図2 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫



図3 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫

表1 キャベツに対するハスモンヨトウの主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
エルサン乳剤	収穫14日前まで	3回以内	1B
マッチ乳剤	収穫7日前まで	3回以内	15
プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	22A
アニキ乳剤	収穫3日前まで	3回以内	6
アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
アフーム乳剤	収穫前日まで	3回以内	6
ブロフレアSC	収穫前日まで	3回以内	30

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf) を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

### 3 その他

ハスモンヨトウと同時にシロイチモジヨトウやオオタバコガが発生している場合があります。どの害虫が発生しているかよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう。